

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

きびしいあつ つづがながっていますが、たの なつやす す
暑い暑さが続いているのですが、楽しい夏休みを過ごしていますか。

せんしゅう せんぞ れい むか ぎょうじ おこな ぼん はかまい て ひと
先週は、ご先祖の霊をお迎えする行事が行われるお盆でしたので、お墓参りに出かけた人もいますことし
よう。すでに亡くなった家族が決して遠くへ行ってしまったのではなく、いっしょ
一緒にいてくださるということを思い
お とき
起こす時です。そして、せんぞ
先祖からとぎれることなくつながって自分の命があるということに、かんしゃ
感謝するときでも
おも
あると思います。

きょう おな かんが かた かみ め かたがた いま
キリスト教にも、同じような考え方があります。もうすでに神さまのもとに召された方々、そして、今はこの
ちじょう い てん かえ わたし もの かみさま めぐ むす
地上で生きているけれど、いつか天に帰っていく私たちすべての者が、神様の恵みによって一つに結ばれ
ているという信仰です。そのことを「聖徒の交わり」と呼んでいます。そして、な かがた わたし
亡くなった方々は、私たちのた
かみさま いの しん
めに神様にとりなして祈ってくださるということを信じています。

おばやしせいしん しきち めい がた ねむ ぼち し
ところで、小林聖心の敷地には、25名のシスター方が眠っておられる墓地があるということは知っています
ね。がっこう ぼち めずら ありがた しよだいがくいんちょう
ね。学校に墓地があるというのはとても珍しいことであり、また有難いことでもあります。初代学院長のマザ
ー・マイヤーはこのおばやし とち がっこう た とき なに さき わたし ぼち
小林の土地に学校を建てることになった時、何よりもまず先に、「ここを私たちの墓地に
しましよう。」とお決めになったとのことです。わたし まいにち はかまい
私の毎日することの一つは、お墓参りをすることです。もちろん
あ
お会いしたこともないシスターたちばかりですが、ひと き はなし のこ しりょう かたがた
人から聞いた話や、残っている資料から、どういう方々だ
ったのかを知るようになると、とても親しく感じられるようになってきます。そして、わたし むか
私を迎えてくださるシスタ
ーたちに取り囲まれて色々お話をすると、ふ し ぎ ころ やす たし がっこう
不思議と心が安らいできます。確かにシスターたちは、この学校の
こ せんせい がた しごと かたがた うち かたがた おばやし おかぜんたい みまも
子どもたち、先生方、お仕事をされている方々、お家の方々、そして、小林の丘全体のことを見守っていてく
ださいます。

じ き ち せんぞ せんそう いのち うしな かたがた
どうぞ、この時期、血のつながった先祖はもちろんのこと、戦争で命を失われたたくさんの方々、そして、
おばやしせいしん おんじんがたなど たくさん かたがた いのち いま じぶん
小林聖心の恩人方等、沢山の方々の命につながって今の自分がある

いの おも めぐ
のだということも、祈りのうちに思い巡らしてみてください。

